

2018.6.1(金) 13:30-16:30 (13:00開場)
ソフトピアジャパン セミナーホール



テクノロジーの“**辺境**”

フロンティア

岐阜イノベーション工房2018:シンポジウム

13:30-14:15
第1部:基調講演

“民主化”したテクノロジーを
活用したイノベーション創出

小林 茂

14:30-16:10
第2部:話題提供と議論

AIを中心とするテクノロジーの“**辺境**”

小池 誠 / 徳井直生 / 市原えつこ / 小林 茂

16:10-16:30
第3部

岐阜イノベーション工房の紹介

小林 茂

岐阜イノベーション工房2018:シンポジウム

フロンティア テクノロジーの“辺境”

絶えず変化し続ける世界において生き延びるには、既存事業の継続的なカイゼンと、新たな製品やサービスを市場に投入して顧客を創出する「イノベーション」の両輪が必要です。このイノベーションと密接な活動をしてきたのが、情報科学芸術大学院大学[IAMAS]です。

岐阜県が1996年に開学したIAMASには、アート、デザイン、工学、建築、社会学など多様な分野から様々なスキルや視点、経験を持つ教員と学生が集まり、AI、IoT、AR、VR、デジタル製造など、最先端のテクノロジーの可能性と課題の探求をし続けてきました。この学校で培われた方法論の本質を短期間で学べるよう再編成したのが、今年度から始まる「岐阜イノベーション工房」です。

導入となるこのシンポジウムでは、イノベーションの必要性と方法論について基調講演で紹介したのち、AIを中心とするテクノロジーの“辺境”で活躍する方々からお話を伺い、議論を通じて理解を深めます。

岐阜イノベーション工房とは

イノベーション創出に有効とされる「デザイン思考」と「システム思考」を短期間で学ぶワークショップです。最初の演習では、IoT、AI、デジタル設計、デジタル製造、現場での観察と分析、アイデア創出、プロトタイプ製作などを合計10回程度で学びます。続く実習では、サポートを受けつつ、演習で学んだことをそれぞれの現場で実践します。最後の成果報告会では、実習期間中の成果を発表し、課題を共有します。当日は相談ブースを設置しております。お気軽にご相談ください。

日時 2018年6月1日(金)
13:30-16:30(13:00開場)
会場 ソフトピアジャパン セミナーホール
入場 無料
定員 200名(要事前申込)
定員に達し次第、申込締切

お申込み・お問い合わせ
株式会社ブラド
〒500-8833 岐阜県岐阜市神田町1丁目8-4
MAIL gifu-innovation@prad.co.jp
TEL 058-264-1172 (担当:番村)

情報科学芸術大学院大学[IAMAS]事務局
〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4丁目1-7
TEL:0584-75-6641 http://www.iamas.ac.jp

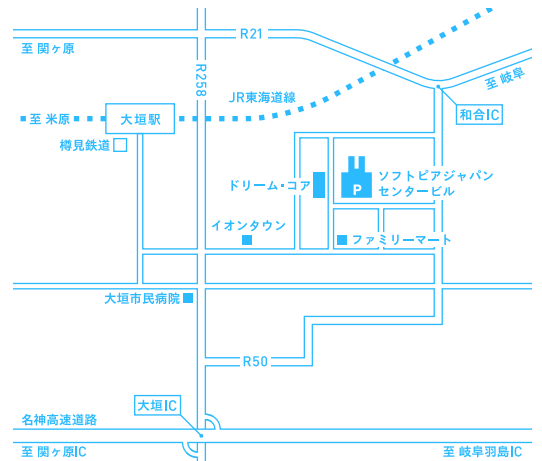
主催:情報科学芸術大学院大学[IAMAS]
運営:株式会社ブラド

ソフトピアジャパン センタービル
大垣市加賀野4丁目1-7
http://www.softopia.info

交通アクセス

公共交通機関をご利用の場合
JR東海道線「大垣駅」から
▶車で約10分
▶バスで約15分(名阪近鉄バス)
大垣駅南口3番乗車→「ソフトピアジャパン」下車

自動車をご利用の場合
名神高速道路
▶「大垣IC」から約20分
▶「岐阜羽島IC」から約20分
※地下駐車場(有料)をご利用下さい。



小池 誠 キュウリ農家



静岡県でキュウリ農家を営む。自動車部品メーカーでソフトウェア・エンジニアとして経験を積んだ後、4年前に就農。エンジニアの経験を活かし現在は農業×ITによる農作業の効率化に取り組む。オープンソースなソフトウェア、ハードウェアや、ファブラボ等のオープンな「ものづくりの場」を活用することで、個人でAIによるキュウリの自動選果機を開発。

徳井直生 (株)Qosmo代表取締役 / メディアアーティスト / DJ / 九州大学客員准教授



東京大学工学系研究科電子工学専攻博士課程修了。工学博士。ソニーコンピュータサイエンス研究所パブリックリサーチ員などを経て、2009年にQosmoを設立。Computational Creativity and Beyondをモットーに、AIと人の共生による創造性の拡張の可能性を模索している。近作にAIを用いたブライアン・イーノのミュージックビデオの制作など。また、AI DJプロジェクトと題し、AIのDJと自分が一曲ずつかけあうスタイルでのDJパフォーマンスを国内外で続けている。

市原えつこ メディアアーティスト/妄想インベンター



1988年、愛知県生まれ。早稲田大学文化構想学部表象メディア論系卒業。日本的な文化・習慣・信仰を独自の観点で読み解き、テクノロジーを用いて新しい切り口を示す作品を制作する。アートの文脈を知らない人も広く楽しめる作品性から、国内の新聞・テレビ・Web媒体、海外雑誌等、多様なメディアに取り上げられている。家庭用ロボットに死者の痕跡を宿らせ49日間共生できる《デジタルシャーマン・プロジェクト》で第20回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門優秀賞を受賞、総務省の独創的な人向け特別枠「異能vation」に採択。

小林 茂 情報科学芸術大学院大学[IAMAS]教授



博士(メディアデザイン学・慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科)。著書に『Prototyping Lab』『アイデアスケッチ』など。2008年にIPA(情報処理推進機構)よりスーパークリエイタに認定。「民主化」されたテクノロジーを活用し、多様なスキルや視点、経験を持つ人々が共にイノベーションを創出するための方法論や、その過程で生まれる知的財産を扱うのに適切なルールを探索。メイカームーブメントの祭典「Ogaki Mini Maker Faire」では総合ディレクターを担当。

参加申込書	企業名(任意)	部署名	業種
代表者氏名	〒	住所	参加人数 人
電話番号	E-MAIL		

記載していただいた個人情報は、「岐阜イノベーション工房プロジェクト事業」のために利用し、それ以外の目的では利用しません。またその利用目的の範囲を超えて、第三者への提供や預託はいたしません。

上記に必要事項を記入の上ファックスまたは上記内容をメールにてお申し込みください。FAX:058-266-6300 MAIL:gifu-innovation@prad.co.jp